

ダッカ宣言

(仮訳)

第 13 回 SAARC 首脳会議

2005 年 11 月 13 日

カレダ・ジア・バングラデシュ人民共和国首相、リョンポー・サンガイ・ンゲドゥプ・ブータン王国首相、マンモハン・シン・インド首相、マウムーン・アブドゥル・ガユーム・モルディブ共和国大統領、ギャネンドラ・ビール・ビクラム・シャー・デーヴ・ネパール王国国王、ショーカット・アジーズ・パキスタン・イスラム共和国首相、及びチャンドリカ・バンダラナイケ・クマーラトゥンガ・スリランカ民主社会主義共和国大統領は、2005 年 11 月 12～13 日、バングラデシュのダッカにおける第 13 回南アジア地域協力連合 (SAARC) 首脳会議において会合を行った。

地域協力

2. 各国政府首脳は、SAARC が新たな 10 年の出発点に立ち、南アジアの進化に向けての重要な時期に第 13 回 SAARC 首脳会議が開催されていることに留意した。各国政府首脳は、今次首脳会議が、その創設後 20 年の間に得られた地域協力の成果を確かなものとし、また SAARC 憲章に定められた目的と原則の実現のためあらゆるレベルにおける効果的な協力を促進する前向きな戦略を策定する特別な機会を提供しているとの点で意見の一致を見た。

3. 各国政府首脳は、SAARC の枠組みの中における協力とパートナーシップが、共有された価値、信条、及び熱意の健全な基礎に基づいていることに留意した。各国政府首脳は、SAARC の目的と目標が、全ての加盟国にとって引き続き関心事項でありかつ重要事項であるということを確認した。最近の南アジア及び世界全体における政治・経済的変動は、建設的な地域協力のより活発かつ効果的なプロセスの重要性と必要性を強調している。各国政府首脳は、そうした協力を持続的なものとし、そのことにより地域の平和、発展及び安定に貢献することに対するコミットメントを強調した。

4. 各国政府首脳は、SAARC が創立後 20 年の間に良い方向に進化しており、また SAARC の議題が、南アジアの人々の福祉増進、経済成長の促進、社会進歩、文化発展、及び南アジア諸国の集団的自立の強化といった憲章上の諸目的の達成のために不可欠な関心事項や分野に対応してきていることに留意した。各国政府首脳は、かかる諸目的の実現のために、たゆまぬ真摯な結果志向の努力のみならず、誓約やコミットメントを具体的な行動や地域的イニシアティブ、及びプロジェクトに移行させていくための継続的な努力が必要であることを強調した。各国政府首脳は、SAARC を、南アジアにおける幾百万もの人々の

生活の質を目に見える形で向上させる効果的な協力の制度とするためのそれぞれのコミットメントを再表明した。

5. 各国政府首脳は、難しい課題であり続けている貧困、飢餓、その他の形態の欠乏、及び社会的公正から南アジアを解放するための努力を継続しなければならないことを強調した。加盟諸国は、経済分野での地域協力を大きく加速させるべく努力するとの決意を表明した。特に強調すべき点は、地域において生まれる利益や機会が全ての加盟国によって共有され、南アジアの真の経済的潜在力が完全に実現されるために、より広い経済空間を確保することである。各国共通の課題に対処するため加盟諸国の人的資源及び能力を開発するにあたり、ダイナミックな相互補完関係を創造する努力がなされるであろう。各国政府首脳は、様々な分野の優良事例に関する情報交換を含むあらゆる可能な手段とメカニズムを通じて地域協力を加速させる必要性を強調した。

6. 各国政府首脳は、南アジアの人々が SAARC の強さ及び原動力の真の源であるとの考えを改めて表明し、人々の希望と熱意により対応した地域協力を行うとの決意を固めた。各国首脳は、SAARC が市民社会組織、専門家グループ、及び企業家らとの連携を拡大すべきであるとの点で合意した。加盟諸国はまた、南アジアのアイデンティティを促進かつ主張し、人的交流をより促進し、共通の文化的遺産から力を引き出すことに努力すべきである。

7. 各国政府首脳は、SAARC 主導でプロジェクト協力を開始することの重要性を強調した。各国政府首脳は、SAARC 憲章の既存の規定に従ってプロジェクトを実施することを各加盟国に奨励した。それらプロジェクトは、人的資源開発及び貧困削減を含む経済・社会セクターに関連するかもしれない。必要に応じて、国際金融機関、国連諸基金及びプログラム、あるいは適当な場合には、域外諸国から財政及び技術的支援を受けて実施される可能性もある。

貧困削減

8. 各国首脳は、2006 年から 2015 年までの 10 年間を「SAARC 貧困削減の 10 年」と宣言することを決意した。この 10 年間において、南アジアを貧困から解放するための国家レベル及び地域レベルの両方における努力が、コミットメントと切迫感をもって継続されるであろう。

9. 各国政府首脳は、貧困削減に関する独立南アジア委員会 (ISACPA) の貴重な業績を高く評価した。また、各国政府首脳は、同委員会の勧告に基づいた SAARC 開発目標 (SDGs) を承認し、第 12 回 SAARC 首脳会議において採択された貧困削減に関する行動計画 (Plan

of Action on Poverty Alleviation) のフォローアップ及び実施を呼びかけた。各国政府首脳は、本件に関し ISACPA がその勧告的及び啓発的役割を継続するよう委任した。各国政府首脳は、第 12 回 SAARC 首脳会議において採択された ISACPA 報告書で特定された行動の優先項目を承認した。各国政府首脳は、この重要な分野において、地域イニシアティブの要素を導き出しつつ、この優先項目が適切に考慮されるものと合意した。各国政府首脳は、あらゆる利害関係者との間でのパートナーシップを推進するとともに、具体的な地域的プログラム及びプロジェクトの形成及び実施に焦点を絞ることを決定した。

10. 各国政府首脳は、貧困に関連した問題に焦点を当て包括的に検討する専門的な会合の必要性を強調し、貧困削減に関するメカニズムを三層立てから、国家レベルで貧困削減の対応を行う閣僚及び次官レベルの二層立てに変更することを決定した。

資金機構

11. 各国政府首脳は、SAARC 貧困削減基金 (SPAF) を任意または合意の下での予算分担率に基づく拠出で設立することを決定した。各国政府首脳はまた、各財務大臣に対し、財務専門家会合の成果を考慮しつつ同基金の運用方式に関する勧告を策定することを指示した。これに関し、パキスタンの次期財務大臣会合主催の提案を歓迎する。SPAF の運用方式は財務・計画大臣により定められる。各国首脳は、SPAF が南アジア開発基金 (SADF) 一後に再構築される SAARC 開発基金 (SDF) 一の中において機能することに合意した。そして、その SDF は、全ての SAARC プロジェクトやプログラムの総括財務機関として機能し、常設事務局に設置される 3 つの窓口、すなわち社会、インフラ、経済の各窓口から成る。

12. 各国政府首脳は、財務大臣会合を各首脳会議の後第一四半期以内、また世界銀行及びアジア開発銀行 (ADB) の年次総会のサイドラインにおいて開催し、南アジアにおけるマクロ経済開発及び経済見通し、MDGs と相関関係にある SAARC 開発目標の達成現状を把握し、また投資環境、外貨流入、金融セクター改革並びに他の分野における協力の評価を行うことを決意した。

経済協力の推進

13. 各国政府首脳は、主要な経済分野における協力を加速することが、憲章上の目的の実現のみならず、その精力的な前進の中で南アジアが真に活発でダイナミックでそして安定したものとする上で極めて重要であるということを強調した。各国政府首脳は、経済及び商業分野、とりわけエネルギー分野における協力を加速することにつき各国のコミットメントを再確認した。各国政府首脳は、未解決の課題についての交渉の進捗に関し留意し

かつ、すでに合意されたように、2006 年 1 月 1 日より南アジア自由貿易地域（SAFTA）協定が発効することを確保するために全ての附属文書の早期解決を指示した。

1 4. 各国政府首脳は、SAFTA 協定をスケジュールの通り、即ち 2006 年 1 月 1 日に発効することの重要性を強調した。SAFTA の発足は、南アジア経済連合に向けての道筋における重要な標石となるであろう。各国政府首脳は、同協定の下での未解決の課題に関する諸交渉を 2005 年 11 月末までに終了させるよう指示した。更に、各国政府首脳は、協定の運用に間に合うように必要な各国の諸手続きを終了させることを指示をした。

1 5. 加速的かつバランスのとれた経済成長のために地域をつなぐ運輸及び通信の強化の必要性を改めて表明した。各国政府首脳は、SAFTA 協定に規定されている、貿易自由化に向けた更なる措置を講じるよう指示した。各国政府首脳は、加盟国間の輸送連結を高めるために現在進められている SAARC 地域複合輸送調査（SAARC Regional Multimodal Transport Study）について満足の意を示した。各国政府首脳は、地域内の貿易及び他の経済活動を高めるために、関心国間の理解を前提として、SAARC 加盟国間の通過を含む貿易の円滑化措置を実施することに合意した。各国政府首脳は、これに関しインド提案について留意した。各国政府首脳は、相互主義に基づきかつ既存の権利を損なわない範囲で、全 SAARC 加盟国に特定の飛行機会社による日常の飛行機の運行を認めるとのインドの提案、また、相互主義で、SAARC 地域内における中距離及び以遠区間にわたる、加盟国の特定の飛行機会社に第五の自由の権利を付与するというインドの提案につき検討することを合意した。

1 6. 各国政府首脳は、サービス部門の貿易、投資強化、及び調和した規格を含む SAFTA の範囲の拡大を行い地域経済統合を更に進める必要性を認識した。

1 7. 各国政府首脳は、第 1 3 回 SAARC 首脳会議の期間に下記の諸協定が調印されたことを歓迎する。

- 税関相互支援協定
- SAARC 仲裁評議会設立協定
- 限定的二重課税防止及び税務相互支援協定

1 8. 各国政府首脳は、非関税及び準関税障壁の撤廃のための並行的イニシアティブの必要性を強調した。各国政府首脳は、この文脈において、域内貿易円滑化の観点から、規格、試験及び度量衡単位の相互承認に関する協定の締結につき迅速な措置を求めた。各国政府首脳は、非公式レベルで急速に拡大しているサービス貿易の潜在性を認識した。各国政府首脳は、サービス部門がいかにして SAFTA プロセスに統合されうるかに関する研究を求めた。

19. 各国政府首脳は、適切な分野において、加盟諸国における貿易創出投資を推奨することを決定した。各国首脳は、電気通信を含む情報・通信技術（ICT）の分野におけるより緊密な地域協力の必要性を強調した。

20. 各国政府首脳は、イスラマバードにおいて10月に行われた第1回 SAARC エネルギー大臣会合の共同声明を歓迎した。各国政府首脳は、水力を含む電力源の開発及び地域内におけるエネルギー取引を促進し、再生可能及び代替的エネルギー源を開発し、地域内におけるエネルギー効率及び省エネルギーを促進するために、イスラマバードに SAARC エネルギー・センターを設立する勧告に同意した。各国政府首脳は、エネルギーに関する作業委員会に意見を提示するために、エネルギー分野における協力の可能性を開拓する施策の提言を行う政府関係者、専門家、研究者、環境保全活動家及び NGO を交えた南アジア・エネルギー対話プロセスを構築することの必要性を強調した。

21. 各国政府首脳は、インド提案の地域食糧バンクの設立について言及し、同提案を検討することに合意した。

22. 各国政府首脳は、閣僚評議会報告書の15段落目に関し、地域支援ユニットを主催するネパールの提案について留意した。

南アジアの社会的挑戦

23. 各国政府首脳は、SAARC 社会憲章にある具体的な目標達成に向けて、国家及び地域レベルにおいてイニシアティブをとるとのコミットメントにつき再確認した。各国政府首脳は、SAARC が南アジアの人々の期待と熱望に応え、彼らの生活水準を目に見える形で向上させられるようになるためには、これらの目標を達成することが不可欠であることを認識した。各国政府首脳は、このための将来に向けた行動計画を作成するにあたり、地域共同体全体の反応が必要な分野においては、国家レベルの実現努力が地域レベルのプログラムやプロジェクトによって補完されるべきであることを強調した。各国政府首脳は、全ての加盟国において全国調整委員会（NCCs）が設立されたことを歓迎し、NCCs の委員長が年次会合を開催することを決定し、社会憲章のフォローアップと実現のために第一回年次会合を早急に招集するように指示した。この関連で、各国政府首脳は、市民社会資源センター設立のための専門家会合を招集するというモディブの提案に留意した。

24. 各国政府首脳は、加盟諸国が国家戦略及び行動計画作成プロセスを迅速に遂行するよう求めた。各国政府首脳は、国家レベルの実現努力が地域レベルのプログラムやプロジェクトによって補完されるべきであることを強調した。この関連で、地域レベルのプロジ

エクトが、とりわけ保健と貧困削減分野におけるプロジェクトが着手されるべきであると指示した。

25. 各国政府首脳は、女性や子供、特に女兒が直面している深刻な課題に取り組むために、今後10年及びその先も努力を継続する誓約を強調した。各国政府首脳は、彼女等があらゆる種類の欠乏から解放され、南アジアの進歩と開発の完全なパートナーかつ裨益者となるには、加盟諸国が継続して努力することが必要であると言及した。この関連で、各国政府首脳は、子供の権利に関するS A A R Cの10年（2001～2010年）の目標実現の進捗状況の中間レビューを2006年に行うべきであると決定した。

26. 各国政府首脳は、女性及び子供の人身売買によって引き起こされる問題に取り組むために引き続き協力するという強い決意を確認した。各国政府首脳は、全ての加盟国が女性と子供の人身売買に関するS A A R C協定及び子供の福祉に関するS A A R C協定を批准したことに満足を表明し、その早期実現のための効果的な方策を求めた。各国政府首脳は、人身売買被害者が直面する辱めや非人道的扱いについての周知度を高める上で、市民社会団体及びメディアが重要な役割を果たすことに留意した。各国政府首脳は、彼等がこの点で引き続き建設的な役割を果たすよう奨励した。各国政府首脳は、の問題に効果的に対処するために加盟諸国の法執行諸機関が彼等の努力を調整かつ強化すべきであると強調した。

27. 各国政府首脳は、たゆまぬ努力と国毎の具体的革新的アプローチの実行を通じた、初等教育分野における最近の加盟諸国の実績に留意した。各国政府首脳は、この特定分野における地域的イニシアティブは経験と優良事例の共有に焦点を絞るであろうと認識した。また、各国政府首脳は、提供される教育とサービスの持続性、範囲及び質を確保するために、資源の最適活用とプログラムの訓練・運営・実績評価の分野における戦略的介入の認定を求めた。各国政府首脳は、南アジアを文盲の苦しみから解放することが、活動の第3の10年におけるS A A R Cの大きな目的であると強調した。各国政府首脳は、S D G sを実現するための、特にM D G sを追求する文脈の中で初等教育の普遍化を実現するための効果的な方策を求めた。

28. 各国政府首脳は、21世紀の挑戦に対応するためには、加盟諸国が科学、技術及び高等教育の分野において重要な前進をしなければならないことを強調した。各国政府首脳は、加盟諸国による共同的、計画的かつ集中的イニシアティブの相乗作用から生じる利益を引き出すために、これらの分野における地域協力を推進することを優先的に考慮することを決意した。各国政府首脳は、早急に招集されるS A A R C科学・I C T・技術会合の際にS A A R C科学・I C T・技術行動計画を策定すべき旨指示した。各国政府首脳は、南アジア大学を設立するというインドの提案に留意し、この件を更に検討することに合意

した。

29. 各国政府首脳は、鳥インフルエンザのような世界的流行病の予防とコントロールを含む、健康上の緊急事態に対応するために協調して準備をする必要性を認識した。なぜなら、これらが健康、貿易及び人の移動に関係する観光に影響を及ぼす主要な世界的脅威となっているからである。各国政府首脳は、それらの緊急事態への地域的戦略を早急に作成し、南アジア地域内外での協調を認定かつ強化し、他の地域機関との連結を設立する必要性を強調した。各国政府首脳は、新興・再興感染症に対処するために、S A A R C保健監視センターと緊急派遣保健対応システムの早期設立を求めた。

30. 各国政府首脳は、H I V／A I D Sの拡大を防ぐためにS A A R Cが共同して対応するための戦略策定の準備を歓迎した。各国政府首脳は、南アジアからこの恐ろしい病気を撲滅するために、この点における地域的取り組みが更に強化されるべきであることに留意した。この関連で、各国首脳は、H I V／A I D Sへの地域的戦略の早期実施の重要性を強調した。同時に、各国政府首脳は、デング熱、マラリア及びその他の重大な公共保健上の懸念となる感染性あるいは伝染性の病気の予防と治療のための地域的戦略を策定するために協力を強化する必要性を強調した。

31. 各国政府首脳は、地方における基礎的保健サービスと衛生管理に関する地域的イニシアティブを打ち出すことに合意し、地域内の経験と優良な事例を共有することを奨励した。各国政府首脳は、伝統医学とともに医学的専門性と薬剤分野での協力のためのS A A R C行動計画の策定の早期化及び地域内での安価な医薬品の生産、安価な医薬品の規格や認証手続きの調和化と生産の可能性を追求することを呼びかけた。各国政府首脳はまた、地域の優先事項として、伝統医学の促進とそれに関連する知的所有権の保護に関する措置が取られるべきであると合意した。

南アジアの環境課題及び自然災害

32. 各国政府首脳は更に、S A A R C加盟諸国間の環境分野での協力を促進するために地域環境条約を策定する様式について検討することを決定した。各国政府首脳は、環境破壊が進んでいることへの深い懸念を表明し、環境保護と維持のために協調した行動を取る重要性を再確認した。S A A R C環境行動計画の実現に向けた進捗に満足を表明しつつ、各国政府首脳は、ブータンにS A A R C森林センターを設立するという閣僚評議会の決定を歓迎した。各国政府首脳は、情報、専門的知識、訓練の共有及び社会林業に重点を置いた地域的プロジェクト作成のために、このセンターが森林分野における調整的役割を果たす必要性を強調した。

33. 各国政府首脳は、津波災害を受けて招集された2005年6月のマレにおけるSAARC環境大臣特別会合の宣言を歓迎した。各国政府首脳は、津波その他の自然災害の早期警戒、準備態勢及び管理のための地域的プログラム及びプロジェクト策定の勧告を承認した。各国政府首脳は、早期警戒と災害管理に関する包括的枠組みの策定を求めた。

34. 各国政府首脳は、SAARC気象研究センターやSAARC沿岸地域管理センターといった既存のSAARC機関が、各々の与えられた使命を果たせるようにその能力を強化するというSAARC環境大臣特別会合での決定を承認した。

35. 南アジアにおける地震、津波その他の自然災害が人命と財産にもたらす甚大な被害に鑑み、各国首脳は、迅速な対応を確保するために、災害に対する準備態勢、緊急支援及び再定住に特化した恒久的な地域的対応メカニズムを整備する緊急性を強調した。各国政府首脳は、関係する国内機関に対し、早期警戒、情報交換、訓練及び緊急支援活動分野での経験と優良事例の共有といった災害対策分野における活動を調整するよう指示した。

36. 各国政府首脳は、持続可能な開発を推進するために、水資源管理を含む環境分野での協調行動の必要性を強調した。各国政府首脳は、2007年を地域全体の緑化キャンペーンを行う「緑の南アジア年」に宣言することを決定した。各国政府首脳はまた、地下水の砒素汚染問題と被害者支援に取り組むことについて合意した。

テロとの戦い

37. 各国政府首脳は、テロリズムがSAARC憲章及び国連の基本的価値観に反しており、国際的な平和と安全の最も重大な脅威の1つであるとの意見で一致した。各国政府首脳は、「SAARC テロ防止地域協定」追加議定書を全加盟国が批准したことに満足の意を表明し、同議定書履行のための効果的なメカニズムを整備するよう求めた。各国政府首脳は、あらゆる形態のテロ行為を強く非難するとともに、テロが全ての国家に対する挑戦、人類全体にとっての脅威であり、いかなる理由でも正当化しえないとの点で意見の一致を見た。各国政府首脳は、テロとの戦いにおいて二重基準が許されるべきでないことを強調した。南アジア地域においてテロ攻撃が最近も引き続いて発生し、安全、経済的安定、社会的発展に影響を及ぼしている現状に鑑みて、各国首脳は、テロを防止し、テロと戦う取り組みにおいて団結する決意を表明した。この関連で、各国政府首脳はまた、国連安保理決議1373号（2001年）に留意した。

38. 各国政府首脳は、「SAARC テロ防止地域協定」追加議定書の早期かつ効果的な実施を求めた。各国政府首脳は、包括的テロ防止条約の早期締結の必要性を強調した。各国政府首脳はまた、加盟国が各国関係機関間の情報交換、連携、協力等重要な分野において協

力を強化することに合意した。

39. 各国政府首脳は、毎年、内務次官会合に引き続いて SAARC 内務大臣会合を開催することを決定した。

40. 各国政府首脳は、適切な地域的メカニズムを通じて、「麻薬及び向精神薬に関する地域協定」の規定を履行するために具体的な措置を執るよう指示した。

小国の安全保障

41. 各国政府首脳は、小国は固有の脆弱性を有しているため、主権、独立、領土の一体性を守るために、関係各国・機関からの特別支援措置を必要としていることに留意した。この文脈において、各国政府首脳は、小国の保護が、国連憲章と法の支配、そして、規模にかかわらず全ての国家の主権と領土の一体性に関する普遍的に受け入れられた原則や規範に完全に従うべきであることを強調した。各国政府首脳は、適切な政策及び行動の遂行を通じて、全ての小国の利益と安全を保護するために、具体的な態度を示すことにコミットした。

人的交流及び文化協力

42. 各国政府首脳は、SAARC の精神が、人と人との交流の促進努力及び国境を越えたつながりを積極的に推進している南アジア中の活発な市民社会によって維持されるべきであることに留意した。各国政府首脳は、南アジアの国会議員間の定期的な接触の方法を確立するため、早急に SAARC 国会議長・国会議員連合の会合を実施すべきであることを認識した。各国政府首脳は、SAARC 各国間の旅行促進、文化及びスポーツにおける青年交流の促進、SAARC 域内観光の促進、専門的諸団体間の連繋の確立、及びその他の具体的な措置の実施により、あらゆるレベルにおける人的交流を促進するための加盟諸国の努力が継続されることを強調した。各国政府首脳は、2006 年を「南アジア観光年」とする決定を歓迎した。各国政府首脳は、早期に観光大臣会合を開催し、2006 年の間に実施される活動の計画を策定するよう指示した。各国政府首脳はまた、加盟諸国が、民間セクター団体による地域の理解と調和促進のイニシアティブを奨励する旨表明した。

43. 各国政府首脳は、南アジアの人々をより緊密な関係とする文化の重要な役割を認識した。各国政府首脳はまた、南アジアの明確なアイデンティティを強化し投影するために、文化の分野における協力が極めて重要であることを強調した。この文脈において、各国政府首脳は、キャンディにおける SAARC 文化センター設立に関する前進に満足を表明するとともに、センターの早期運営開始の重要性を強調した。各国政府首脳はまた、SAARC 文

化アジェンダを策定するため、可及的速やかに SAARC 文化大臣会合を開催するよう指示した。各国政府首脳は、SAARC 繊維・手工芸品博物館設立、とりわけ種々の技術や関連伝統におけるデザインの保存、職人・工芸家の訓練、デザイン技術の育成、促進イベントの実施、調査の実施に関するインド提案に留意した。

国際政治及び経済環境

4 4. 各国政府首脳は、イスラマバードにおける前回首脳会議以来の国際政治及び経済発展をレビューした。各国政府首脳は、国連憲章の原則及び目的の普遍的遵守を確保する緊急的必要性を強調した。各国政府首脳は国際社会に対し、ミレニアム・サミット及びモンレー合意のコミットメントを果たすため、努力を強化するよう呼びかけた。各国政府首脳は、2005年国連世界サミットの成果に留意するとともに、地球規模の問題の協同管理及び平和、安全、開発、正義及び人権の促進のための中心的機関としての役割に見合った国連システムの有意義な改革の必要性を強調した。各国政府首脳はまた、ミレニアム宣言及びミレニアム開発目標（MDGs）の時間を遵守する形での実施を促進する包括的アプローチに対する全面的な支持を強調した。

4 5. 各国政府首脳は、地球的規模の平和と安全の促進のためには、安全保障上の現存する非対称性、及び地域・地球レベルの全ての国における安全保障の確保における現存する非対称性を除去することが求められることを強調した。各国政府首脳はまた、全世界の軍縮という地球的目標の効果的追求及び大量破壊兵器拡散防止の重要性を強調した。

4 6. 各国政府首脳は、WTO の多国間貿易体制の更なる強化に対するコミットメントを再確認した。各国政府首脳は、全ての WTO 加盟国に対し、ドーハ開発ラウンドの成功裡の終了への道を開くため、2005 年 12 月の香港閣僚会合で現状を打開するために必要な合意と調停を行うよう求めた。各国政府首脳は、開発途上国の正当な関心が現ラウンドの貿易交渉の成果に十分反映されるよう、開発の側面が引き続き現在進行中の交渉の中心となるべきであることを強調した。各国政府首脳は、加盟諸国が、貿易やその他重要な経済問題に関する継続中の交渉におけるそれぞれの立場を調整するために、緊密に連携することに合意した。各国政府首脳は各商務大臣に対し、共通の関心事項に関する SAARC 共通の立場を展開するために、2005 年 12 月に香港で開催される第 6 回 WTO 閣僚会合の際に協議するよう指示した。

4 7. 各国政府首脳は、地理的ローテーションの定着した原則が遵守されるべきであり、アジア人が次期国連事務総長として任命されるべきであるという一致した見解を認識した上で、2006 年の国連事務総長選挙問題に言及した。この点で、各国首脳は、スリランカが立候補していることに留意した。

政治的協力の強化

48. 各国政府首脳は、南アジアの持続的平和及び安定の環境における協力の推進を、全ての加盟国がより重視してきていることを歓迎した。各国政府首脳は、主権平等、領土保全及び国家独立、武力不行使、不介入、及び他の加盟国の国内問題に対する不干渉の原則に対するコミットメントを改めて表明した。各国政府首脳は、相互依存が深まり、平和、自由、社会正義、経済的繁栄といった目的の追求が必要とされているとの認識に立ち、各加盟国が建設的関与を継続することを通じて、相互理解を深め、良好な善隣関係を築き、有意義な協力を育てていくという決意を再確認した。

SAARC の外部におけるプロファイルとリンケージ

49. 各国政府首脳は、第59回国連総会において SAARC にオブザーバーとしての地位が与えられたことを歓迎するとともに、それによって、国連における SAARC への評価が高まるのみならず、各加盟国が様々な多国間フォーラムの場で SAARC の共通の立場を反映することが可能になることに対する期待を表明した。各国政府首脳はまた、他の地域的及び国際的な機関、組織、団体が、SAARC の目的や優先事項に基づく様々な共同事業において、SAARC との協力につき新たに関心を示していることを確認した。各国政府首脳は、アフガニスタン・イスラム共和国の SAARC 加盟に係る要請を歓迎するとともに、手続きの完了を条件に、アフガニスタンを加盟国として招待した。各国政府首脳はまた、中華人民共和国及び日本がオブザーバーとして関与したいとの希望を有していたことを歓迎するとともに、原則としてそれに合意した。SAARC 閣僚評議会は、2006年7月に開催される第27回会合において、この点に関する具体的な参加形態を決定する。

SAARC の組織的機構の強化

50. 各国政府首脳は、これまで以上に SAARC が取り組むべき課題が幅広いものとなり、計画及びプログラムを実施することに重点が置かれるようになったことに伴い、それに応じて SAARC の制度的能力を強化することが必要であるとの意見で一致した。テーマ別の担当閣僚会合が重要であるとの認識に立ち、各国政府首脳は、閣僚会合が地域的課題や優先事項に重点的に取り組み、また SAARC の諸目的実現に寄与すべきであることを強調した。各国政府首脳は、SAARC 創立20年に際し、事務局及び各地域センターを含めた全ての SAARC 機関及びメカニズムの包括的な見直し及び改革を行うことが不可欠であるとの意見で一致した。これに関連して、各国政府首脳は、閣僚評議会に対し専門家会合を招集するよう求めた。各加盟国が指名する専門家から構成される同専門家会合が、本件に関する詳細に渡る研究を行い、次回閣僚評議会会合に報告書を提出する。各国政府首脳は、現

閣僚評議会議長に対し、15日以内に研究の委任事項案を作成する権限を与えた。同案は、必要に応じて、SAARC 全外務大臣の電話会談で承認を受ける。

SAARC ビジョン： SAARC 第3の10年に向けての課題

51. 各国政府首脳は、南アジア経済連合（SAEU）のビジョンの段階的かつ計画的な実現に対するコミットメントを改めて表明した。各国政府首脳は、SAARC が創立20周年を迎えたことから、これが次の10年に向けての南アジアにおける地域協力へのロードマップを策定するのに適切な機会であるとの意見で一致した。南アジア地域が直面している新たな課題に鑑み、過去20年間に成された誓約やコミットメントを地域的なプロジェクト、プログラム及び改革的イニシアティブの形で具体的な行動に移すべきである。

52. 各国政府首脳は、全ての SAARC 機関及びメカニズムに対し、南アジア全体において目に見える認識可能なインパクトが感じられるよう、実施に専心して取り組む10年に向けて共同で取り組むよう指示した。各国政府首脳は、これにより、全ての南アジアの人々の生活の質を向上させるという SAARC の基本的目的が達成されるのみならず、同時に南アジア経済連合（SAEU）の設立を可能にするような環境を創出することを強調した。各国政府首脳は、常設委員会に対し、次回特別会合において、「SAARC 第3の10年に向けてのビジョン」に関する勧告を策定するよう指示した。そのビジョン実現のための行動計画については、高級事務レベル委員会が詳細を検討することになる。

第14回 SAARC 首脳会議の日程及び会場

53. 各国政府首脳は、2007年に第14回 SAARC 首脳会議を主催するというインド政府の提案を歓迎した。

（了）